

経済為替ニュース

SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED FX NEWS

第2132号 2012年10月09日(火曜日)

《 good for Obama 》

もし11月の大統領選挙でオバマ大統領が再選されたら、「あの数字が一番重要だった」ということになりそうな9月の雇用統計でした。市場でも「予想外」と受け取られたが、政治的に重要な失業率は7.8%とオバマ政権下で今までずっと続いていた8%台を明確に下回った。8月は8.1%だったが、その前の7月は8.3%だったから、この3ヶ月を取ればトントン拍子で下がっていることになる。

先週行われた大統領候補者同士の討論会でオバマ大統領が劣勢に追い込まれたのは、オバマ・サイドに「経済の好転」を示す具体的な数字がなかったからだ。オバマは財政赤字にしろ経済の状況にしろ、ずっとロムニーに攻め続けられた。しかし9月の雇用統計は明らかにオバマに「(アメリカ経済に)改善の兆し」という説明の機会を与えた。

だから「勝利が視野に入ってきた」というロムニーが討論会の直後に支持者向けに送ったメールは時期尚早というものだろう。分裂の兆しさえ見せてきていた自軍の選挙陣営の立て直しの意味が強かったと見る。もっとも、オバマ陣営にとっても手放しで喜べる9月の雇用統計ではなかった。雇用統計でのもう一方の注目数字である非農業部門の就業者数は11万4000人と予想より僅かに少なく、失業率の低下ほどには「米雇用市場の力強さ」は感じない。

失業率の低下にはしばしば「職を探していた人の職探し放棄」での率低下が取りざたされてきた。今回の数字にもこの傾向があると見られるが、共和党候補支持者の中には「オバマはここまでやるのか」と政権サイドの数字操作を指摘する向きもある。それほど衝撃的な数字だった。

第一回候補者討論会やその後の雇用統計。大統領選挙が一ヶ月後に迫った時点で大きな数字や情勢の変化が出てきているが、直近のスイング州(オハイオ、フロリダなどが有名)での直近の世論調査によれば、「ロムニーが劣勢をひっくり返した」というところまでは行っていない。フロリダでは並んだが、オハイオ州では依然としてオバマ有利だとの調査結果もある。第二回討論会は10月の中旬に行われ、今度は会場の有権者からの質問に答える形で行われる。

討論会でのやり取りで勝っても、実際に支持が上がり、それが投票行動に表れなければ意味がないので、ロムニー陣営は「討論会の成果を受けた有権者の投票行動での変化」に賭けることになるだろう。しかしアメリカ経済を全体的に言うと、雇用の所ばかりでなく住宅など

様々な分野で「リバイバル」を感じさせる動きが続いている。株価はそれを先に織り込んできており、今は上値をなかなか終えない状況になっているが、全体的には現職に力を与える経済状況になりつつある。

これは世界経済にとっては朗報である。中国やインドが「途上国としての成長の壁」に直面して、今までの「途上国が世界経済を引っ張る」というシナリオが崩れつつあるだけに、「世界経済成長のエンジン」としての期待は大きい。もっともそれがまたアメリカの対外収支の赤字拡大に繋がるようだと持続性は低いということになる。

《 figures this week 》

今週は先週の雇用統計ほど重要な統計はないが、EMS が正式発足した後のヨーロッパの情勢と合わせて、アメリカ経済の状況に関する数字も発表されるので、そうした観点から市場の関心が集まるだろう。今週の主な予定です。

10月9日(火)	8月国際収支 10月金融経済月報 9月景気ウォッチャー調査 IMF・世界銀行年次総会(14日まで/東京) EU財務相会合
10月10日(水)	ブラジル金融政策委員会 米8月卸売在庫 米ベージュブック コチャラコタ米ミネアポリス連銀総裁が講演 フィッシャー米ダラス連銀総裁が講演 休場/台湾
10月11日(木)	8月機械受注統計 日銀金融政策決定会合議事要旨(9月中旬開催分) 9月消費動向調査 韓国金融政策委員会 米新規失業保険申請件数 米8月貿易収支 プロッサー米フィラデルフィア連銀総裁が講演
10月12日(金)	9月第3次産業活動指数 米9月生産者物価 米10月ミシガン大学消費者信頼感指数(速報値) ブラード米セントルイス連銀総裁が講演 ラッカー米リッチモンド連銀総裁が講演

休場／ブラジル

《 have a nice week 》

3連休はいかがでしたか。天気は時間が進むに従って良くなるという予報は当たっていた。しかし大分寒くなって外出の際に着ていくものを考える時期になりました。風邪などめさぬように。

それにしても嬉しいニュースです。成果発表から6年のスピード受賞。山中教授のノーベル生物・医学賞受賞はその研究がもたらした成果の大きな、それへの期待の表れと言えるでしょう。ES細胞よりははるかに倫理的に問題がなく、再生医療のキーテクノロジーになる研究ですから、大切に育てたいものです。それにしても今回の受賞は、基礎研究の重要性と、それを取り巻く環境の整備の必要性を改めて示したと言える。

ノーベル賞は言ってみれば過去の実績に対する賞。それをベースにした実際の医療への応用部門に関しては、既に各国で競争が展開していて、日本は必ずしも優位ではない。今の実績に相応しい成果を出し続けていきたいものです。

今週はもう海外市場で取引が始まっていますから、短めにしました。皆様によい良い残りの一週間をお過ごし下さい。

《当「ニュース」は三井住友トラスト基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、三井住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》